

ココシリ

「ここが知りたい」
国際協力に関係する
いろんなトピックを
分かりやすく解説します！

国際会議

日・ASEAN外相会議

日本とASEANとの 防災協力とは!?



ASEAN外相会議に出席する松本外務大臣

■ 2011年にASEANで発生した災害

	1月	マレーシア	洪水
	1月	ブルネイ	洪水
	3月	ミャンマー	地震
	3月	タイ	鉄砲水
	3月	タイ	干ばつ
	4月	フィリピン	地滑り
	5月	インドネシア	洪水
	5月	フィリピン	暴風
	5月	マレーシア	土砂崩れ
	6月	ベトナム	豪雨
	6月	フィリピン	台風
	6月	ラオス	洪水
	7月	インドネシア	火山噴火
	7月	フィリピン	鉄砲水
	7月	ラオス	熱帯性暴風
	7月	フィリピン	熱帯性暴風

「アジア防災センター」ホームページを参考に作成（7月末現在）

日

本にとってASEAN(東南アジア諸国連合)は、中国やアメリカと並んで重要な貿易相手であり、エネルギー供給先として重要な存在。またASEANにとっても日本はEU(欧州連合)に次ぐ投資国であり、お互いがかけがえない経済パートナーになっている。さらに多くの日本人にとってASEANは身近な旅行先である一方、ASEANの人々は日本のポップカルチャーへの関心が高く、日本語の学習者や日本への留学生も多いなど、文化面での交流も盛んだ。そして何より、東日本大震災の被災地にASEAN各国から多くの支援物資や義援金、メッセージなどが届けられたことは記憶に新しい。

7月21日、インドネシアのバリ島で

日・ASEAN外相会議が開催され、日本からは松本剛明外務大臣らが出席した。会議では、2003年に採択された「新千年紀における躍動的で永続的な日本とASEANのパートナーシップのための東京宣言」(日・ASEAN東京宣言)の実施状況をレビュー。また、今年11月に開催される第14回日・ASEAN首脳会議で採択を目指す新たな共同宣言・行動計画の策定に向けた協議のほか、ASEAN連結性強化のための日本の支援方針の説明、海上の安全保障、防災協力強化など、多岐にわたる議論が行われた。松本大臣は震災を受けた日本に対するASEANからの励ましの言葉に感謝するとともに、「一日も早く「開かれた復興」を実現するとの決意を表明した。

さらに松本大臣は、今年4月の日・ASEAN特別外相会議で提案した、ASEAN防災人道支援調整センター(AHAセンター)への支援、ASEAN地域フォーラム(AREF)災害救助実動演習の定期開催など、防災分野の協力強化に向けた施策の進捗状況を説明した。特にAHAセンターに対する支援として、通信機材・備蓄物資の供与や専門家の派遣に加え、センター全体の運営を支援する防災専門家を派遣し、運営面を含め同センターを全面的に支援していく考えを示した。

また日本は、「ASEAN防災ネットワーク構築構想」を新たに提案した。これは、東日本大震災や阪神・淡路大震災の経験、日本が持つ防災分野の技術や取り組みをASEAN地域で共有していくことを目指すものであり、情報共有システムの構築や人材育成など、ASEAN全体の防災能力強化に向けた広域的かつ包括的な構想だ。スマトラ沖大地震・インド洋津波災害、そして気候変動の影響により多発化・大型化する台風。こうした自然災害がASEAN全体に拡大している中で、地域を一体としてとらえた防災ネットワークの必要性が高まっている。日本の支援を通じて、将来ASEANが災害に強い地域になることを期待したい。日本と重要な関係にあるASEAN。そのASEANが抱える課題に日本が引き続き協力していくことは、さらなる友好関係の発展のみならず、日本、ひいては東アジア全体の安定と繁栄にとって重要なことなのだ。

覚

えているだろうか。2010年11月の事業仕分けでは、青年海外協力隊事業の実施体制、運営方法などについて、さまざまな指摘があった。こうしたこともあり、外務省では、発足以来約半世紀が経過するこの事業のあり方を、経済界やNGO、地方関係者のほか、広く一般から意見を募りながら検討。その成果として、今年7月に札幌市内で開催された講演会で、山花郁夫・外務大臣政務官が「草の根外交官・共生と絆のために」我が国の海外ボランティア事業」を発表した。この政策ペーパーでは、開発途上国や新興国が国際社会の中で存在感を増す中、人と人とのつながりを地道に築いていく海外ボランティアは、こうした国々に日本のファンを増やすための有効な外交手段になっていると指摘。それを示すものとして、協力隊の活動

政策

ボランティア政策ペーパーを発表

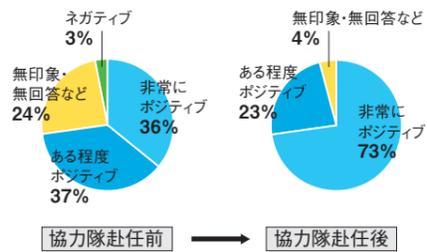
青年海外協力隊員は 草の根の外交官!

現場から東日本大震災の被災地に支援が寄せられたことや、協力隊派遣によって対日好感度が向上したことをあげている。また今後は、①相手国の社会・経済の発展、②相手国との友好親善・相互理解、③国際的視野の涵養と社会還元といった外交・開発協力政策上の位置付けをより明確にし、実施体制や運営方法の効率化を進めていくとした。また、帰国後の活躍を支援する取組を強化することや、隊員が持つ情報や経験への期待・関心を踏まえBOPビジネス※1やCSR※2、NGOとの連携を図っていくことなども盛り込まれた。「言葉や文化の壁を乗り越え活動しファンを増やす協力隊は、いわば草の根外交官である」(山花政務官)。日本と世界の絆を深める海外ボランティアに、関心と期待が高まっている。



青年海外協力隊が派遣されているスリランカの学校「アンベ-コダ・スリ・サンガボーディ・ウィディヤレ」から、東日本大震災の被災地へたくさんの応援メッセージが寄せられた

■日本のファンを増やす青年海外協力隊



協力隊の配属先で日本や日本人への印象を調査した結果、ポジティブと答えた割合が、赴任前の73%から96%へ大幅に増加(JICA・2005年調査結果より)

※1 Base Of Pyramidの略。最も低所得の40億人を対象としたビジネス。
※2 Corporate Social Responsibilityの略。企業の社会的責任。

ODAを知る

10月1日(土)・2日(日)

「グローバルフェスタ JAPAN2011」へ行こう!

世界は、ミレニアム開発目標(MDGs)のような世界が直面しているさまざまな課題、紛争や災害に同じように苦しむ途上国の現状などを学び、国際協力の重要性を考えるイベントも。ステージでは著名人によるトークセッションのほか、「ゴスペル・ライブ」など楽しい企画が目白押し。毎年恒例の「チャリティーラン」、さらにNGO、大使館、国際機関、企業などがブースを出展し、国際協力に関する活動や、途上国の物産や料理の紹介・販売を行う。世界との「絆」を感じる2日間を、どうぞお楽しみに!

■今年の見どころ

- 1 日比谷公園を「絆」の絵で埋め尽くそう!プロジェクト
(世界中から寄せられた応援の絵画、寄せ書き、被災地の子どもたちの絵などを展示)
- 2 東北支援ブース
(観光・ボランティアツアー案内など)
- 3 藤原紀香さんによるトークショー



昨年は過去最高の約10万5,000人でのぎわった。今年の開催概要はホームページ(<http://www.gfjapan.com/>)へ